

報 告 書

2016年8月29日

望月 厚司様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2016年8月19日（金）～21日（日）	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	五城目町役場 地域活性化センター シェアビレッジ 八郎潟干拓地・国際教養大学図書館
	(2) 対 応 者	地域おこし協力隊 五城目町まちづくり課
3 目 的	日本を代表する米どころ。農水省が文化遺産に登録している日本の原風景。この地のために総務省の地域協力隊事業がつけられたと言われる町。廃校を使った地域活性化センターの運営や、古民家を利用したシェアビレッジなど、先進事例の創生事業を視察するために参加する。	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p>五城目町は、干拓による大潟村の東方、秋田県の中央部、秋田市まで40分の距離。農業と林業の農山村。人口9,481人（平成27年）高齢化率43.9%。500年の歴史のある朝市。姉妹都市の千代田区でも開催している。誘致と起業で雇用の場をつくろう！人口減少に歯止めをかけよう！が総合発展計画のこの町。</p> <p>8億円かけて改築した小学校がたった12年で廃校になり、その後、目的外使用を申請し、地域活性化支援センターを開設。レンタルオフィスとして貸し出し。オフィス月額1室20,000円事業支援棟1棟30,000円。雇用を創出する場として、起業やコミュニティー活動を支援する場として新たな施設として生まれ変わったババメベース。それを支えているのが、地域おこし協力隊の皆さん。地域外の人材を“地域社会の新しい担い手”として彼らを受け入れ、地域力の強化・維持を図っている。事業創出・移住、定住の促進のため、3年の任期で委嘱された4人が活躍している。それぞれの力を活かして、イベント等を企画し目的を達成し交流人口定住人口増加に寄与している。又古民家を改修しての、シェアビレッジプロジェクト。築133年の家に都会の若者が集まってくる。</p>	

	<p>年貢（年会費）を納めて村民（会員）になった人は現在 1100 人超え。また新たな交流も生み出している。地域おこし隊員の 2 名が東京大学の大学院生だったことを縁に五城目高校生徒との授業のコラボ（連携授業）が行われています。参加した生徒は、ふるさとの価値を見出し、しっかりとした人生の土台が作れたということだ。</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>小さな町が息づいていると感じた。地域おこし協力隊を本当にうまく使っていると感じた。シェアビレッジや活性化センターの起業や企業のレンタルハウス。移住・定住や 6 次産業の開発、等かなりうまくいっている様子。本当に良い事ばかりかと食い下がると、最初の地域おこし隊はいささか失敗したとも。自由に動くのが基本と言えども、決まりをつくることを次回に繋げたということだ。現在は 3 年の期限の中で継続できる土台をつくっているか？成果に繋がれるか？をしっかりと町の職員が抑えていることが必要と思った。それにしても、協力隊員をどん人を選ぶかにかかっていることも実感した。縁と表現していたが、確かに、…。町で発行している冊子。田舎でカッコよく働く！移住実業家になる！シェアビレッジ等のキャッチコピー。の心誘われるのではないかと思う。若者たちに、カッコよい！と感じてもらえるために、静岡市では、他差別化するための呼び込みキャッチを考えるべきではないかと感じた。木材の町の伝統工芸・組子細工。静岡の千筋細工やわっぱ細工、活かす方法を考えていかなければと思う。</p> <p>次にすべて英語で授業進めている国際教養大学。その図書館を訪問した。外国語コミュニケーション能力の熟達・さまざまな学問分野にまたがる広範囲な基礎知識の統合・知的自律性と意思決定能力・自己の文化的アイデンティティへの認識と異文化への理解・グローバル化に対する理解を教育の目標としている本学。静岡市で、市立大学構想が提案されている？が、このくらい特徴のある・個性豊かな大学ならばあり得ると思ったが、中途半端な施設は不要なのではないかと感じた。本物は素晴らしい。ここは教育の事だが、まちづくりについては、それについてどれだけの専門性を持った人、知識を持った人を配置できるかが肝だと感じている。地域おこし協力隊をどう選任できるか、他の部署でも同じことが言える。企業誘致もその道の人を力をどれだけ借りられるかにかかっている。いずれも、発展のためには専門家配置が必要だと感じている。</p>